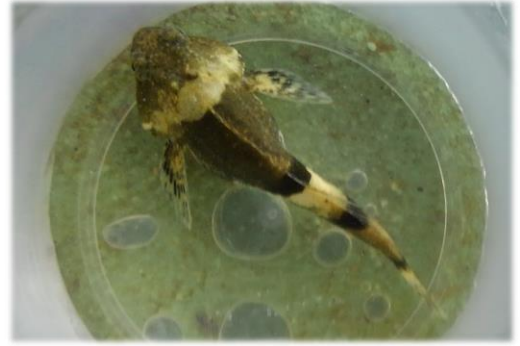


水産研だより

【今回の内容】

- 1 郡上市八幡町で確認されたカワシンジュガイ
- 2 令和6年度 研究成果発表会を開催しました
- 3 水みちの連続性事業について



アユカケ

1 郡上市八幡町で確認されたカワシンジュガイ

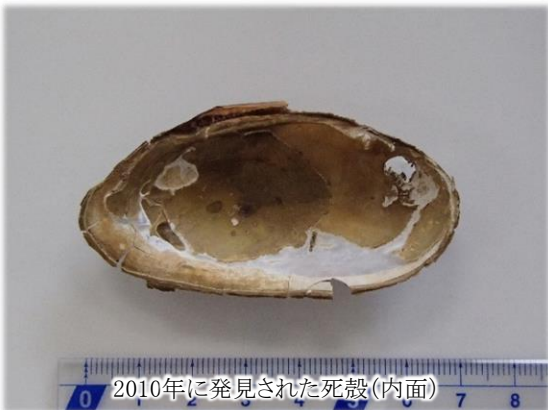
カワシンジュガイは冷水性の淡水二枚貝で、国内では北海道から中国地方にかけての一部の河川にしか分布していない希少種です。現在、本種は生息状況が悪化しており、環境省のレッドリストでは絶滅危惧IB類(EN)に選定されているほか、特定第二種国内希少野生動植物種にも選定されており、販売・頒布目的での捕獲や譲渡が規制されています。



岐阜県では、これまでに木曽川、長良川、神通川、庄川水系でカワシンジュガイが確認されていますが、すでに1950年代には絶滅が懸念される状態となっていました。現在、高山市と郡上市には、それぞれの市の天然記念物に指定された生息地があります。

長良川水系では郡上市大和町の水路が本種の主要な生息地で、市の天然記念物に指定されています。そのほか、そこから1kmほど南で少数の個体が発見された記録がありますが、他には生息地は確認されていませんでした。

今回、それらの生息地から離れた郡上市八幡町の別の水路でカワシンジュガイの生息が新たに確認されました。2010年の調査では死殻1枚が発見されました。また、2022年の調査では生存しているものが1個体発見されました。これは殻長127.2mmの大型の個体で、現在は八幡町内で保護されています。



2010年に発見された死殻(内面)



2022年に発見された生存個体

現段階では今回確認されたカワシンジュガイの来歴は不明ですが、もし自然分布であれば貴重な存在であることから、当面の間は発見された生存個体を保護する必要があります。今後は分布調査の継続が期待されるとともに、八幡町のカワシンジュガイの来歴についての検討が望まれます。

参考文献

繁田理恵・服部茂之・岸 大弼. 2025. 郡上市八幡町で確認されたカワシンジュガイ. 岐阜県水産研究所研究報告, 70: 9-12.

(下呂支所 岸)

2 令和6年度 研究成果発表会を開催しました

令和7年3月6日、中濃総合庁舎5階大会議室において、令和6年度岐阜県水産研究所研究成果発表会及び養魚講習会を開催いたしました。

研究成果発表会では、岐阜大学高等研究院環境社会共生研究センターから永山特任助教をお迎えし、「見えてきたアユの動きと温暖化影響～5年間の長良川全域徹底調査から～」として基調講演をいただきました。また、当研究所からは、令和6年の研究成果の中から、「長良川における2024年の流下仔アユ調査と過去との比較」、「アユ発眼卵の耳石標識に適した条件の探索」、「カジカ小卵型飼育管理における水カビ寄生防除技術の開発」の3題の発表を行い、続く養魚講習会では、「岐阜市中央卸売市場で流通する淡水魚」、「令和6年度のアユの魚病診断状況」、「パイセスA(ブロンポール)の販売終了について」の3題の報告を行いました。

今年度の成果発表会は会場の他、Webでの配信も行いました。参加者は、漁業協同組合や養殖場の方々を中心に、自然工法研究会会員、市町村職員、県職員等で、会場参加者は56名、Web参加者は30名となりました。

当日はシステムの都合上、Web参加の皆様からの質問を受け付けられませんでした。が、今後はこういったことのないように運営方法等の改善を図っていききたいと思います。



(漁業研修部 武藤)

3 水みちの連続性事業について

岐阜県では、河川から農地への淡水魚類の移動経路が分断された状況を解消し、生態系を回復するため、関係各課が連携し、河川と農業用排水路の合流落差の解消、農業用水路内の落差の解消、水田魚道の設置といった取り組みを実施しています。

当研究所では魚類のモニタリング調査による、これらの取り組みの効果測定を行っており、今年は県内5地区を調査しました。その1つ、中濃地域の地区では2016年以降3箇所の落差解消および1箇所の水田魚道を設置しました。改善前は約4種の魚類が確認されていましたが、改善後は約12種へ増加し、取り組みの成果を確認しました。

当県では、令和6年から漁業協同組合が漁業法に基づいて実施する増殖行為として、水田魚道の設置等が認められるようになり、今後一層の普及が期待されます。



排水路内に設置された魚道



排水路内で見られた魚

(試験研究部 加藤)